

## 知床どんぐり銀行

開設式おこなう

朝から雨模様の9月27日(土)、斜里町運動公園周辺と通称「発見の森」(国有林142林班)で、斜里町主催知床森林センター協力の『森の探索とどんぐり拾い』と『知床どんぐり銀行開設式』が行われました。

この催しは、平成7年から町木のミズナラを増やし動物を呼寄せ森を豊にしようと毎年開催されています。当日は、あいにくの雨でしたが子供たちを含め14名の参加がありました。

どんぐり銀行開設式の後、どんぐりの選び方についての説明を受けた

参加者は、カッパや傘を差し一路隣接する発見の森に入りました。その後拾い集めたどんぐりを各人の通帳に記帳してもらいました。

子供たちの中には拾った半分を持ち帰りたという子もいて、親に植える場所が無いからとだめられていました。なお銀行は毎週月曜日に開かれ預金された量により図書券と交換されます。



登山者の安全を願って

## 登山案内板新しくなる

今年の夏山シーズンも知床連山は沢山の登山者で賑わった。主峰の羅臼岳(1,661m)が「日本百名山」に選ばれていることもあり、中高年のグループ登山や本州方面からの登山者が数多くみられた。

そんな登山者の安全を願って、羅臼岳登山口と硫黄山登山口にある登山案内板を新しいものにした。



## 知床連山案内図



環境庁からの委託を受けた清里営林署によって建てられた案内板は、木製で左側半分は知床連山の案内図を配置し、右側半分は注意事項等の標示スペースと入山届箱が配置されている。とりわけ、案内図は羅臼岳から知床連山を経て硫黄山に至るルートの子尾根や沢、所要タイム等が記載され、「要注意」として「雪渓上の歩行、転倒・滑落の危険あり」と鮮明な色分けで具体的に記入され、今までに例を見なかった内容の案内板となっており、地図を持たない登山者にも心強い味方となるものと期待される。

## 知床の森から



北見営林支局 ☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町11番地  
知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

平成9年10月 第51号



ナナカマド(バラ科)  
紅葉が終わると真赤な実が存在を主張する。宙に鮮やかな色彩。風に揺れながらおなかの空いた小鳥を待つ。

## 知床の秋を楽しみました

〜今年最後の森歩き〜

第39回「森林レクリエーション・in知床」『紅葉の森で森林浴・自然観察』を、10月14日に知床自然観察教育林で、21名が参加して実施しました。

コースに沿って展開する自然や森のすがたは、夏を終えて秋一色でした。森は広葉樹が黄変し、針葉樹の濃緑と絶妙なコントラストを造っていました。コースは落ち葉が足にじゃれつくように跳ね、音を立てます。春しか水を湛えないポンホロ沼は一面の草原で、その草原も今は草が枯れ、レンガ色に染まっていました。

水量の豊かな「ホロベツの滝」は、両岸に紅葉を配して目を見晴らせます。

コースの何か所かには、キノコが申し訳程度に顔を出しており、興味目で見ていた人もおりました。

昼休みは「クマゲラの滝」のある溪流の河原でとり、しばしの疲れをいやしました。

午後からはまたコースをたどり、「轟きの滝」を眺めて溪流から離れて森歩きです。

エゾユズリハは黒っぽい実をつけ、ナナカマドの赤い実は鮮やかに宙を彩っていました。

静かな森はゴジュウカラの声を微かに伝え、鋭い雄エゾシカの一声が響き渡りました。

全行程5キロ余り、森の中を進みながら時々立ち止まって、自然の現象や森と樹木、植物や風景、紅葉の仕組みや秋の味覚キノコの話など、森林インストラクターの説明を受けていました。森の中を約4時間、登り下りの森の道を歩いて、参加したみなさんは、知床半島の秋を十分堪能したようでした。



--- 地元にある身近な森で ---

### 紅葉に囲まれ 自然観察会

第16回「森とのふれあい」『みどりの自然観察会』を、10月12日（日）に斜里町運動公園に隣接する「発見の森」（国有林142林班）で町立知床博物館との共催で実施しました。

当日の参加者は小学生5名を含む12名でした。森に入る前に、樹木が種を落とす姿を真似して作られたアルソミトラ・マクロカルパ、ロケット・ラワンという模型で種子の落ち方を楽しく遊びながら学び森に入りました。



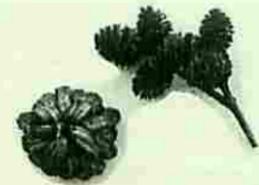
森は色づく紅葉の時期、コースには地面に落ちているミスナラのドングリ、きれいにぶら下がるツリバナの種子、キツネの穴、先住民のチャシ（砦あとなど）、参加者みなさんは身近な森での新鮮な発見に一時を楽しんでいました。

この森は、昨年から当センターと知床博物館の間で「発見の森」と名前をつけ、町民に広く活用してもらおうとイベントを行っている場所です。コースには先住民が残したチャシや竪穴住居跡、いろいろな樹木や動物なども観察することが出来ます。

今年中には遊歩道コースを新設する予定になっており、夏は散策コース、冬は歩くスキーコースとして楽しめる場として期待しています。



種子の落ち方を模型で学ぶ



### 森あるきの楽しさ 秋の宝物を探して

知床は秋一色に染まり、冬の訪れをまっぴかりです。

この季節の森歩きがいちばん楽しく、少し目線をかえれば、今まで気が付かなかった宝物が見えて来ます。

派手な色の木の実はもちろんですが、下をよく見ると不思議なかたちの木の実や小枝、小石、落ち葉、ドングリ、クルミ、ハンノキの実、ツリバナの殻など、歩きながら宝物を拾ってポケットはだんだん膨らんでいく。

しれとこ  
産業  
まつり

## 好評 “知床の自然写真パネル展”

丸太切らせて！

第18回「しれとこ産業まつり」は、10月5日（日）に行われました。

センターと斜里営林事務所では、今年も“催しもの”で参加し、多くの人たちが足を止め好評でした。

催しものは“知床国有林の紹介”としたコーナーを設け、“パソコン写真展示、丸太切り体験、空中写真実体視”の三本建てです。

パソコンでプリントアウトした知床半島の動植物写真を展示し、また、希望者には無料配布を行ったこともあって、大勢の人々が集まってきました。

丸太切り体験では子供たちは面白そうに、年配の方々は昔を偲んでか嬉しそうに切っていました。

最近では生活の場で木を切ることはほとんどないせいか、子供に体験を勧める親も多く、親子で挑戦する光景もありました。

空中写真実体視では、ようやくピントが合い、感じ入るように知床半島の空中散歩を楽しんでいる光景が見られました。

今年のまつりも例年のように賑わいを見せ、特産品販売や他の催しものコーナーもおおいに盛り上がっていました。

そんな中でセンターは催しものを通じ、まつりの中で“知床の森”を語り、森への理解と共感を深める存在として、おおいにアピールすることができた一日でした。



何を造ろうかと、空想する時がいいのです。ただ素敵な菓子箱に入れて置くだけでも楽しいものです、時々開けてはあの森歩きのときを思い出せます。

小石が壁飾りのなかにちやっかりすましていたり、小枝が人形になっていたり、ブドウづると松ボックリで出来ているリースがクリスマスの出番を待っています。

少し遊び心も手伝って子供のころを思い出しながら、又宝物を探しに森の中をガサガサ歩きまわってます。

